

読めば、もっとおいしくなる

酪農発祥の地・千葉県

千葉県南部にある安房地域は

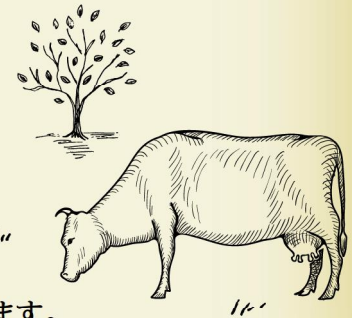
「日本酪農発祥之地」。

日本の酪農のあゆみに欠かせない

安房地域の酪農は、

江戸時代に始まりました。

ここではその歴史の一部をご紹介します。



8代将軍・吉宗の令 嶺岡牧場の誕生

酪農発祥の地・嶺岡牧(現・千葉県南房総市)は、戦国時代である1500年代に馬を育てる牧場として開かれました。

その後、江戸幕府が管轄する牧(※)となり、8代将軍・徳川吉宗がインド産と言われている白牛を3頭導入。繁殖を繰り返し、大量の牛乳を生産できるようになると、「白牛酪(はくぎゅうらく)」と呼ばれる乳製品が作られるようになりました。白牛酪は、現代のバターのようなもので、始めは将軍への献上品として扱われていましたが、生産量が増えると一般庶民にも販売されるようになりました。当時は、栄養価が高い食

品として珍重されていたようです。

これが日本で初めての酪農とされ、以降全国の酪農や乳業につながっていったことから、千葉県は酪農発祥の地と言われています。

明治に迎えた 日本酪農の勃興

明治以降、日本の酪農が繁栄期を迎え、全国の需要に応えるべく、千葉県から東京への生乳輸送がより盛んになっていきました。

政府の管理下になっていた嶺岡牧場では、牛の伝染病が発生し、200頭を超えていた牛が激減し、白牛にいたっては全滅してしまいました。その後、明治22年に嶺岡畜産株式会社が発足。繁殖・改良が進められ、本格的な乳牛飼育

事業が展開されました。

明治44年に同社は解散し、現在跡地には嶺岡乳牛研究所が作られ、千葉県の酪農研究や指導拠点としてその名を残しています。



嶺岡乳牛研究所前に設置されている
「日本酪農発祥之地」の記念碑

(※)牧…牛や馬などの飼育・繁殖のための放牧区域のこと。
江戸時代には、幕府が管轄する牧が設けられ、役人によって管理されていました。

引用：酪農のさとホームページ

